

「あなた」や「あなたが所属する団体等」で実施されている活動や事業（要旨のまとめ）

1. 生活を支援するサービスや活動の充実 ～ 地域のさまざまな力をつないで、一人ひとりの「その人らしい生活」を支援する ～

- (1) 生活のなかの困りごとを、多くの力をつないで解決していくしくみの充実
 (2) さまざまな困りごとに対応できるサービスや地域福祉活動の推進
 (3) 難しい課題などに対応するセーフティネットのしくみづくり
 (4) 安心して生活できる「住まい」への支援の推進
 (5) 「暮らしと自立」をみんなで支えていく取り組みの推進

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	・介護認定審査会の委員を医師会から推薦している。	
坂口委員	・ひとり暮らしの人などから相談を受け、支援が必要な場合は自治会や民生委員等に依頼している。	・プライバシーの問題がある。 ・対応に時間がかかる。
佐々木委員	・地域でさまざまな相談を受け、市、地域包括支援センター、社協、ボランティア団体等につないで支援している。 ・子育てサロンや「かぎ預かり事業」などの活動も行っている。	・多様化する問題への対応が、スムーズにできないときもある。
白川委員	・買い物難民への支援として、週1回の「買い物ツアー」を2つの校区福祉委員会で実施している。	・買い物ツアーの利用者増加が予測されるため、運転ボランティアの確保が課題である。
中嶋委員		
長谷川委員	・ひきこもりに関する相談や家族交流会、講演会を実施するとともに市や医療・福祉の関係機関と支援のあり方を検討している。 ・アルコール依存症状態の人と問題飲酒のある人を対象に、アルコール健康相談を実施している。	・ひきこもりの大人の人の生きがいつくりや就労支援に利用できる場が、市内にはほとんどない。 ・アルコール依存症状態の人と問題飲酒に関するさらなる啓発が必要。
藤本英祐委員		
藤本宜男委員	・買い物弱者への支援として、業者の協力を得て「朝市（青空市）」を毎週開催している。	・出店業者、利用者、協力者に対する住民の誹謗中傷が多い。住民意識（モラル）改革が課題である。
丸山委員	・会員の相談に毎月の役員会で対応し、関係機関と交渉して解決にあたっている。	
三和委員	・テーマ型のNPOや事業者、地縁型の社協等が連携して、生活支援サービスを推進する「寝屋川高齢者サポートセンター」を運営し、全国的に注目を浴びている。 ・自立を支援するための中間就労を「あいの会」で施行した。	・中間就労で就労支援を行う際に、保護司と同じレベルの個人情報の提供ができるようにしてほしい。 ・買い物難民対策は事業者が収支計画の範囲で実施し、行政の支援は最小限に留めるべきである。 ・「(仮称)セーフティネット委員会」は、国がすすめる「パーソナル・サポート・サービス」を超えたモデルとして推進してほしい。
山田委員	・社協が実施している「かぎ預かり事業」に、21の施設の1つとして協力している。	・超高齢化社会への対応を“オール寝屋川”で取り組むよう啓発し、積極的に具体化を行う。

2. 相談やニーズを把握する取り組みの充実 ～ 暮らしの困りごとに気づき、相談や支援につながるしくみを充実する ～

(6) 身近な相談の場とネットワークの充実

(7) 多様なつながりを活かした積極的なニーズ把握の推進

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	<ul style="list-style-type: none"> 電話や音声応答の「24時間テレフォンサービス」で、医療相談や苦情相談に応じている。 	
坂口委員	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブに未加入の高齢者の見守り活動も日常的に行い、相談や頼みごとにも対応している。 	
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> 福祉委員や住民から連絡や相談を受けている。 社協構成員として「まちかど福祉相談所」の相談に対応している。 ひとり暮らし高齢者を訪問し、現状を把握している。ひとり暮らし高齢者の見守りも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を気軽に利用してほしい。
白川委員		<ul style="list-style-type: none"> 相談・支援のしくみはほぼできあがっており、発見につながるような活動の工夫が必要である。
中嶋委員		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や福祉委員が知られていない。 地域包括支援センターの利用者が少ないので積極的に周知し、利用を推進してネットワークの充実を図るべきである。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員の参加も得て、アルコール依存症状態の人と問題飲酒について、“いかに発見し相談につなぐか”というテーマで研修会を開催した。活動を通じたニーズの掘り起こしにつないでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> アルコール依存症状態の人と問題飲酒の隠されているニーズの掘り起こし。
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> 月に数回、サロンや清掃活動などにより集まる環境を作り、会員間で情報共有するとともに、必要時には地域包括支援センター等の関係機関につないでいる。 	
藤本宜男委員	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ形成の場として「絆サロン」、「フラットみい」、「憩いの場」を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> エリアコミュニティの場を既存施設を利用して提供する必要がある。 エリアのニーズを吸い上げる仕組みをつくるべきである。
丸山委員	<ul style="list-style-type: none"> 障害者が困っていることについてのアンケート調査を実施した。 	
三和委員	<ul style="list-style-type: none"> 「サポートセンター」では生活支援ニーズを把握・分析して支援体制の強化に努めており、生活、環境、癒しなどの多様なニーズへの一元的な支援活動は、利用者から好評である。 	
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターを受託し、高齢者の「よろず相談」にあたっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターが浸透するよう、地域に積極的に向き、住民の信頼をいっそう得る必要がある。

3. 地域福祉についての情報伝達と理解の推進 ～ みんなが地域福祉について知り、理解をすすめる ～

(8) 情報をきめ細かく伝える取り組みの推進

(9) さまざまな場での福祉の学習と話し合いの推進

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「かかりつけ医療機関安心MAP」を作成し、市民に配布した。 ・ホームページで、寝屋川市の保健福祉医療情報を提供している。 	
坂口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・単位クラブで、出前講座を市に依頼して実施している。 ・市老連でも取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加できない人への対応が必要である。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・府や社協などからの伝達・連絡事項を各会議で全員が共有し、研修を行っている。 ・部会ごとの専門的な研修や、校区ごとに学習も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と社協の活動を両立するため、多忙である。
白川委員		<ul style="list-style-type: none"> ・“元気なときは聞き流してしまうのが普通”だと考えて、必要になったときに情報が届く工夫が必要である。
中嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が主催するボランティア講座を受講している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉への理解がまだ乏しいので、学習の場を積極的に設け、関心や理解を高める。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ねやがわへの掲載、寝屋川保健所ホームページ、寝屋川保健所通信、アルねや通信、まいぷれ寝屋川等、各種媒体を通じて、市民や関係機関に情報を発信している。 	
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人クラブで機関紙を毎月発行している。 ・勉強会も開催している。 	
藤本宜男委員		
丸山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある会員に、「声のテープ」を毎月送付している。 ・新聞を年4回発行している。 	
三和委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「サポートセンター」で高齢者を意識してデザインしたパンフレットを作成し、校区福祉委員会や老人会の協力を得て全戸配付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ねやがわに福祉のスペースを確保するとともに、掲示板や回覧板は市以外の事業も広報できるよう緩和すべきである。 ・地域の福祉情報（イベントや事業）を一元管理し、2か月単位で見られるものを配付する必要がある。 ・“市民を支えるしくみ”をビジュアルに示す（地域包括ケアシステムのような）図を作成する。 ・学校での福祉教育を強化しないと、心暖かいまちが消滅する。
山田委員		

4. 地域福祉をすすめるつながりづくりの推進 ～ いざというときにも支えあえる、信頼できるつながりづくりをすすめる ～

(10) 身近な地域でのつながりづくりの推進

(11) 災害時などに的確に支えあえるネットワークづくり

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	・ 地域防災訓練に参加した。	
坂口委員	・ 単位クラブでは7～10人の班で日常的なつながりがあり、災害時などに連絡を取りあう体制ができている。	
佐々木委員	・ 孤立しないように、さまざまな行事を行い、参加を促している。 ・ 自治会、福祉委員会、民生委員が密に連携しており、自治会単位のネットワークもあるので、比較的対応できると思う。	・ 災害の経験がないため、発生時には戸惑う恐れがある。
白川委員		
中嶋委員		・ 隣人の顔を知らず、関心もない人が増えるなかでのつながりづくりは困難だが、災害時などには支えあいが必要である。
長谷川委員		
藤本英祐委員		
藤本宜男委員	・ 高齢者や子ども・家族が集う「絆サロン」、「憩いの場」、「フラットみい」を開催し、高齢者の趣味を活かして活躍してもらうとともに、地域包括支援センター等とも課題共有をすすめている。 ・ 高齢者、障害者の生きがいにもなっている。	・ 地域のなかでも住宅形態などによってニーズが異なるため、小規模なエリアごとに活動の場が必要である。 ・ 住民の参加意識を高め、近所づきあいから地域福祉をはじめる必要がある。 ・ 自治会の在り方と活性化。
丸山委員	・ 防災に関するアンケートや研修会を実施している。	
三和委員		・ 「かぎ預かり事業」を契機として、緊急時の情報共有のしくみづくりをすすめてほしい。
山田委員	・ 災害時には、地域にある施設として可能な限り住民を受け入れることにしている。	・ 身近で親しみのある施設として、地域との関係を築く。 ・ 「地域＝故郷」の創造を住民全員参加で取り組み、市も協力する。

5. 地域福祉の担い手づくりの推進 ～ 地域福祉の担い手づくりと、協働できるネットワークづくりをすすめる ～

(12) 多様な地域福祉活動の場づくりと参加の呼びかけの推進

(13) 福祉の仕事を担当する人材の確保への支援

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員		
坂口委員	<ul style="list-style-type: none"> 市老連に各種委員会（健康、趣味、支援、女性、若手、総務、広報）を設置し、健康推進事業や地域貢献事業を行っている。 	
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を対象とした「ふくしまつり」等の行事やふれあいサロン、配食などの活動、児童を対象とした見守りや声かけ、小学校の福祉体験学習の手伝いなどの活動を行っている。 自治会は1～2年で役員が交代する場合があるので、そのなかで福祉活動やボランティア活動への参加を呼びかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動が広がり、委員の負担が大きくなる。 若い人は福祉活動などに関心が薄く、協力者が少ない。 子育て等の日常の生活に追われている人が多くみられる。
白川委員		
中嶋委員		<ul style="list-style-type: none"> 福祉の仕事に就きたいと思う若者が少ないので、賃金を高くして、PRに努める。 登録サポーターやボランティアを確保するよう参加を呼びかける。
長谷川委員		
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> 「わくわく未来塾」が開催する教室に、ボランティアの参加を要請している。 	
藤本宜男委員		<ul style="list-style-type: none"> 地域で活動できる人材（若い人）の確保が課題である。
丸山委員		
三和委員	<ul style="list-style-type: none"> 「サポートセンター」は、謝礼・有償ボランティアの団体が集まっており、地域通貨も全国一となり注目されている。「サポートセンター」では介護事業者も介護保険外のサービスを低価格で行っており、全国的にも希有である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に無償の活動だけでは支えきれなくなっており、危機感をもって謝礼・有償活動の担い手を強化する必要がある。 要支援者の訪問介護・通所介護が市に移管されることは、市民活動を活性化させるチャンスであり、スケジュールやカリキュラムの情報公開を早急にすすめる必要がある。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事の啓発として、中学生の職場体験を受け入れている。 元気アップポイント事業のボランティアを積極的に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学などの受け入れを拡充し、人材の掘り起こしを行う。

6. 地域福祉活動への支援の充実 ～ 地域福祉活動を応援する取り組みをすすめる ～

(14) 地域の資源を活かした地域福祉活動への支援の推進

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員		
坂口委員	・単位クラブで空き缶や古紙の回収を行い、その収益で車いすの寄付や保育所の訪問を行って喜ばれている。	・地道な活動なので時間がかかる。
佐々木委員		
白川委員		
中嶋委員		・地域の資源を活かした活動への支援を、行政がさらに積極的に、根強く行う。
長谷川委員		
藤本英祐委員		・乳児健診の応援を行っているが、他団体には支給される手当がないため、団体の活動に支障を来している。
藤本宜男委員		・活動資金の確保が課題である。
丸山委員		
三和委員	・「サポートセンター」では事務所の空きスペースを活用して、会員相互の交流や情報交換の場を設置している。	・資金を確保するため、ふるさと納税の広報の強化や、共同募金のセーフティネットへの活用を行う。 ・地域協働協議会の人材を確保し、福祉活動に財源を配分する。
山田委員		

7. 権利擁護や虐待防止のための取り組みの推進 ～ 一人ひとりの権利を尊重し、虐待などを起こさせないまちづくりをすすめる ～

(15) みんなで連携してすすめる権利擁護支援の取り組みの推進

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員		
坂口委員		
佐々木委員		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護の制約のため、情報提供があってもすぐに対応できないケースがある。
白川委員		<ul style="list-style-type: none"> 全く身内がないひとり暮らし高齢者が亡くなったときの連絡窓口や手続きを明確にし、周知する必要がある。
中嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> 社会を明るくする運動や、「ふらっとねやがわ」の人権講演会に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の徹底を軸として、差別やいじめ、虐待を根絶する運動を展開すべきである。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> 市や子ども家庭センターと連携して、児童虐待の早期対応に努めている。高齢者や障害者の虐待事例の相談や対応も、市と連携して行っている。 	
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> 「わくわく未来塾」で各小学校の6年生に戦中・戦後の生活体験を話し、平和の大切さやいじめ防止を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校によって取り組みに差がある。
藤本宜男委員		
丸山委員		
三和委員		
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターで虐待の情報を収集し、市と協力して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の問題で虐待の実態が掴みにくい。 職員に対する権利擁護や虐待防止の研修を、職場内で行う。

8. ユニバーサルデザインのまちづくりの推進 ～ だれもが生活しやすいユニバーサルデザインの生活環境づくりをすすめる ～

(16) だれもが生活しやすい地域の環境づくり

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員		
坂口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・単位クラブでゴミ置き場だったところを清掃して花壇を整備し、住民に感謝されている。 ・市老連でも取り組んでいる。 	
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館にスロープや障害者用のトイレを設置した。 ・外出援助サービスを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暴走したり、携帯電話を使いながら走る自転車がある。
白川委員		
中嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家の前の道路を毎日掃除している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い道路を通行する自動車や、糞やゴミの放置など、生活しにくい環境を改善する必要性を感じる。
長谷川委員		
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、庁内の清掃活動を行っている。 	
藤本宜男委員		<ul style="list-style-type: none"> ・地縁組織の再編成を含め、行政によるコーディネートが必要。
丸山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい街づくりを推進している（チャイム、音声信号、点字ブロック、道路整備等）。 ・手話研修会を実施している。 	
三和委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の放置自転車を防止する事業を「あいの会」で受託し、高齢者の謝礼ボランティアが活動して市民に喜ばれている。 ・「サポートセンター」で外出支援サービスを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車を使って外出支援ができるよう、規制を緩和してほしい。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーを啓発するよう、施設の内装や設備で実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーと安全確保のバランスが課題である。

9. 健康と生きがいつくりの推進 ～ 市民一人ひとりが“元気都市”を実現する健康と生きがいつくりをすすめる ～

(17) 市民一人ひとりの主体的な健康づくりの推進

(18) だれもが生きがいをもって暮らしていくための参加の場づくり

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	<ul style="list-style-type: none"> 各医療機関で個別の健康診査や保健指導を実施するとともに、各種がん検診、予防接種等に協力している。 市立小中学校・幼稚園・保育所に会員医師を配置し、児童等の保健衛生や健康保持に努めている。 市の健康教室、健康相談や、地域の健康教室に協力している。 市と共催で「健康長生塾」を開催し、好評を得ている。 市の休日診療所や北河内夜間救急診療所で、会員医師が診療を行っている。 市が実施するイベント等の救護班に、会員医師を派遣している。 	
坂口委員	<ul style="list-style-type: none"> 単位クラブで、介護予防や健康に関する出前講座や「元気アップ体操」を市に依頼して実施している。 市老連でも取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に参加できない人への対応が必要である。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> 有志のグループでヨガや健康体操を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の健康意識を高めたい。
白川委員	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の太極拳を、校区福祉委員会で月1回行っている。 ラジオ体操を毎朝行っている地区がある。 	
中嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> 広報を見て、「元気体操」や認知症の講演会などに参加している。 登録サポーターとして老人ホームで活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 退職者の健康づくりのために身近な参加の場を多くつくり、PRを行う。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙の防止と禁煙の啓発や、禁煙相談を行っている。 アルコール健康相談を実施し、関係機関に周知している。 職域健診やイベントで、食育や喫煙、アルコールなどに関する啓発を行っている。 	
藤本英祐委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域の老人クラブで、出前講座を活用した健康教室やハイキングを行っている。 参加者の年齢層や体力の違いを考慮しながら歩こう会のコースを選定し、市民の健康増進を図っている。 	
藤本宜男委員		
丸山委員		
三和委員	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のフォーラムの開催やテレビの放映などきっかけとして多くの活動者が登録し、高齢者の福祉活動への参加に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者の訪問介護・通所介護が市に移管されることは、市民活動を活性化させるチャンスであり、プロジェクトを立ち上げて市を挙げて取り組むべきである。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの事業としての介護予防教室を、他の地域のモデルとして実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生のラスト10年を元気で過ごせるよう、介護予防事業等を担当エリアの自治会に積極的に呼びかけて推進していく。市内全域でも活発に行う必要がある。

10. 地域福祉をみんなですすめるしくみづくり ～ 地域福祉をみんなですすめるための協議と協働のしくみをつくる ～

(19) 地域福祉計画を着実に推進するしくみづくり

(20) 地域福祉をみんなですすめる協働と連携の場（プラットフォーム）の充実

委員名	あなたや団体等で実施されていること	課題だと感じていること
香川委員	・かかりつけ医推進の一環としての「在宅医療推進会議」や、在宅医療やターミナルケアの推進のための「訪問看護ステーション連絡協議会」をはじめ、市民の健康を守るため各種会議を通じて保健所、市、関係団体等と連携を図っている。	
坂口委員		
佐々木委員	・地域協働協議会が設立され、地域福祉、安心・安全、青少年の部会活動が始まった。	・地域協働協議会は既存の活動と重複する部分があり、活動するメンバーもほぼ同一である。
白川委員		
中嶋委員	・地域包括支援センター2か所を訪問し、話しあいを行った。	・協働と連携の場が充実すれば地域福祉は推進されるが、話しあいの場がどれくらいあるか疑問がある。 ・地域包括支援センターが拠点となるよう、さらに機能の充実を図るべきである。
長谷川委員		
藤本英祐委員	・地域協働協議会で、高齢者福祉部会を開催している。委員会にも参加している。	・地域協働協議会が住民に理解されていない。
藤本宜男委員		・自治会の育成や、行政・有識者の協力のしくみづくりとして、地域協働協議会に期待しているが、地域協働協議会の目的が、自治会や地縁組織に理解されていない。
丸山委員		
三和委員	・「サポートセンター」を創設し、多様な協働を展開している。行政とも協働・連携して21の組織・団体に運営協議会を設置し、全国的にも先駆事業となっている。	・地域協働協議会と既存の団体の役割分担を市民が理解できるよう、明確化が必要である（他市では既存の地縁団体との役割分担が不明確なので、地域活性化につながるよう、寝屋川市として独創的な体制を確立してほしい）。
山田委員		・地域福祉計画の進捗状況を確認する必要がある。